

# 平成22年度病害虫発生予報第7号

平成22年9月30日  
愛 知 県

## 1 普通作物

水稻では、トビイロウンカによる坪枯れを、県下全域で180ほ場以上確認しています。収穫期を迎えているほ場では、刈り遅れのないようにしましょう。

ダイズでは、ミナミアオカメムシやアオクサカメムシなど、吸実性カメムシ類の発生量が平年に比べやや多くなっています。今後、さらに増加することが予想されるので、ほ場での発生が目立つ場合は、適切に防除しましょう。

## 2 果樹

果樹カメムシ類の新世代成虫の発生量は少ないため、果樹園への飛来は少ないでしょう。しかし、台風の通過にともない一部のほ場にカメムシが吹き寄せられることがあるので、台風通過後は果樹園への飛来に注意しましょう。

ナシヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺数がやや多い地域があります。また、モモでは、ナシヒメシクイによる芯折れ症状が多いほ場も見られます。例年、10月上旬頃に成虫の最後の発生ピークがあらわれるので、発生が多かったほ場では、薬剤防除しましょう。

モモせん孔細菌病の発生量が多いので、秋季防除を徹底して、翌年の伝染源を減らしましょう。

## 3 野菜

トマトでは、すでに黄化葉巻病が発生しているほ場があります。9月1日発表のトマト黄化葉巻病情報第1号を参考に病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除に努めましょう。また、一部の地域で、葉かび病の発生が多いほ場があります。例年より発生時期が早いので注意し、初期防除に努めましょう。

イチゴでは、炭疽病が発生しているほ場があります。今後、気温が高めに推移した場合、発生量の増加が予想されるので、発病株を見つけたら抜き取り、適切に処分しましょう。また、ハダニ類の発生量は、平年並ですが、発生の多いほ場では、天敵を導入する前に防除を徹底しましょう。

フェロモントラップ調査によると、ハスモンヨトウやオオタバコガがやや多く誘殺されています。今後も気温が高く推移すると、ほ場での発生量が急激に増加する恐れがあります。結球部への食入後は防除が困難なため、ほ場を見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。

また、アブラナ科野菜では、強風を伴う降雨の後に、黒腐病など細菌性の病害が拡がりやすいので、早めに防除しましょう。

## 4 花き

キクでは、フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数が多くなっています。今後も気温が高く推移すると、ほ場での発生量が急激に増加する恐れがあります。特に、着蕾時期以降に食害を受けると被害が大きくなるので、早めの防除を心がけましょう。

## 作物

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	カメムシ類	やや多い	全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は高い	＋ ＋

### ・防除対策

#### 【ダイズ・カメムシ類】

本日発表の「吸実性カメムシ情報第1号」を参照してください。

## 果樹

### ・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナシ	黒星病	平年並	全域	9月下旬の発生量はやや少ない 初夏まで発生はやや多かった 10月の降水量はやや多い	－ ＋ ＋
ウンシュウミカン カキ	カメムシ類	少ない	全域	予察灯における誘殺数は少ない	－

## 野菜

### ・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
トマト (施設)	葉かび病	<b>やや多い</b>	全域	9月下旬の発生量はやや多い	＋
	コナジラミ類	平年並	全域	黄色粘着トラップにおける誘殺 数は平年並	±
トマト (施設) ナス (施設)	ハモグリバエ 類	平年並	全域	9月下旬のトマト(施設)での発 生量は平年並	±
ナス (施設)	ミナミキイロ アザミウマ	<b>多い</b>	全域	9月下旬のハウレンソウでの発 生量は多い	＋
				10月の気温は高い	＋
ハクサイ キャベツ	コナガ	やや少ない	全域	9月下旬の発生量はやや少ない	－
				9月のフェロモントラップにお ける誘殺数はやや少ない 10月の気温は高い	＋
ハクサイ	べと病	平年並	全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	アブラムシ類	<b>やや多い</b>	全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	黒腐病	平年並	全域	9月下旬の発生量は平年並	±
ハウレンソウ	モザイク病	平年並	全域	9月下旬のアブラムシ類の発生量は平年並	±
	アブラムシ類	やや多い	全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± +
	シロオビノメイガ	やや多い	全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± +
	ミナミキイロアザミウマ	多い	全域	9月下旬の発生量は多い 10月の気温は高い	+ +
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	炭疽病	やや多い	全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± +
	ハダニ類	やや多い	全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± +
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	全域	9月下旬のキャベツにおける発生量は平年並 9月のフェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 10月の気温は高い	± + +
	オオタバコガ	やや多い	全域	9月下旬のキャベツにおける発生量は平年並 9月のフェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 10月の気温は高い	± + +

・防除対策

〔トマト（施設）・葉かび病〕

ベルコート水和剤、トリフミン水和剤、カンタスドライフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

プレオフロアブル、コテツフロアブルなどで防除しましょう。

〔ハクサイ・アブラムシ類〕

アドマイヤーフロアブル、ウララDFなどで防除しましょう。

〔ハウレンソウ・アブラムシ類〕

アクタラ顆粒水溶剤、アドマイヤーフロアブルなどで防除しましょう。

〔ハウレンソウ・シロオビノメイガ〕

カスケード乳剤で防除しましょう。

〔ハウレンソウ・ミナミキイロアザミウマ〕

パダンSG水溶剤などで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・炭疽病〕

アミスター20フロアブル、サンリット水和剤などで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

ニッソラン水和剤、マイトコーネフロアブル、ダニサラバフロアブルなどで防除しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

キャベツ、ハクサイ、イチゴについては、9月1日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

〔野菜共通・オオタバコガ〕

9月1日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は高い	+
	ハスモンヨト ウ	やや多い	全域	9月のフェロモントラップにお ける誘殺数はやや多い 10月の気温は高い	+
	オオタバコガ	やや多い	全域	9月のフェロモントラップにお ける誘殺数はやや多い 10月の気温は高い	+

・防除対策

〔キク・ミナミキイロアザミウマ〕

ハチハチ乳剤、コテツフロアブルなどで防除しましょう。

〔キク・ハスモンヨトウ〕

9月1日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

〔キク・オオタバコガ〕

9月1日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台9月24日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は高い確率40%、2週目は高い確率70%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 10% 平年並 : 30% 高い : 60%

〔降水量〕 少ない : 20% 平年並 : 40% 多い : 40%

〔日照時間〕 少ない : 40% 平年並 : 30% 多い : 30%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。